

中国・雲南省  
関係者来岡

# 震災復興状況を報告

## AMDA本部で交流会

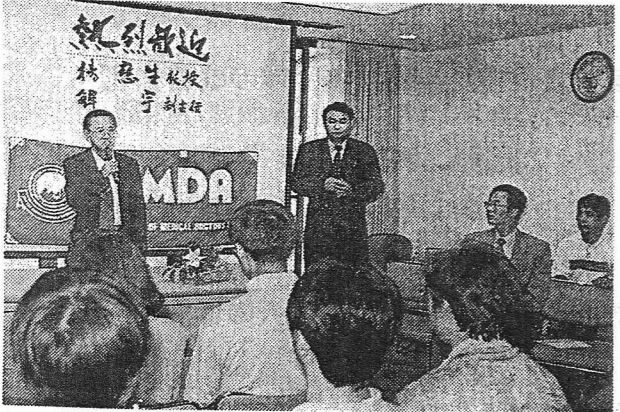
今年二月に発生した中国雲南省大地震への救援プロジェクトを進めているアジア医師連絡協議会（AMDA、本部岡山市楡津）は八日、同プロジェクトの中国側責任者らをAMDA本部に招き、報告会と交流会を開催。中国側から現地の状況が報告され、復興支援に協力した岡山市内の小中学生らに感謝状が贈られた。

同本部を訪れたのは雲南省衛生庁の楊慈生庁長と同庁外事弁公室の解宇主任の二人。AMDA本部に隣接した老人保健施設で、小中学生、AMDA高校生会、県華僑総会や支援団体関係者ら約百人が出席して報告会を開催。菅波茂AMDA代表が「お互いが助け合っていくことで相互理解、信頼が生まれる。阪神、雲南大震災という不幸を乗り越え、岡山と雲南の交流につ

なげよう」とあいさつした。楊庁長は現地の状況を報告するとともに「震災後の一番困難な時にAMDAおよび岡山市民から支援があり、大変有り難かった。感謝の意を表したい」とお礼を述べた。続いて中山、桃丘、平津、ノートルダム清心女子大付属の四小と福浜中の代表に感謝状を贈った。雲南省では今年二月三日、マグニチュード（M）

7の大地震が発生、死者が三百六十人にも上った。AMDAは直後から医療チームを派遣し緊急医療支援を実施。さらにAMDA高校生会の募金、市内の小中学生、県華僑総会などからの寄付が大げがをした子供の治療や現地の小学校再建などに復興に役立てられた。

楊庁長らは九日には県保健福祉部、岡山市国際課を訪問する予定。



報告会で雲南省大地震復興支援へのお礼を述べる楊庁長（左）